

平成二十五年入学試験問題（後期日程）

小 論 文

法文学部 総合社会システム学科（昼間主コース・夜間主コース）

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問題

次の二つの文章は、二〇一一年三月十一日の数日後、三月十七日付けの米国紙『ニューヨーク・タイムズ』に掲載された二人の日本人作家（村上龍と東浩紀）のエッセイです。この二つのエッセイを読み、

(1) 村上の「希望」と東の「希望」の共通している部分と違う部分はどこなのか、あなたの考えを述べなさい。

(2) その後二年の間に日本で起きた出来事を振り返った時、これらの「希望」を今も持ち続けることができるかどうか、二人の「希望」のどちらか一方、または両方に言及して論じなさい。

解答は、(1) は三〇〇字以上、五〇〇字以内で、(2) は五〇〇字以上、七〇〇字以内で、まとめなさい。

村上龍

非公開

非公開

非  
公開

(日本語訳は、「危機的状況の中の希望」『タイムアウト東京』ウェブページから。 <http://www.timeout.jp/ja/tokyo/feature/2581/>, 原文は、以下から。 <http://www.nytimes.com/2011/03/17/opinion/17Murakami.html>, 一部改変)

東浩紀

非公開

非公開

非公開

非  
公開

(日本語原文は、東浩紀ホームページか。 <http://d.hatena.ne.jp/hazuma/20110322>。日本語原文にタイトルはない。英文は、以下から。  
<http://www.nytimes.com/2011/03/17/opinion/17azuma.html>, 一部改変)

平成二十五年入学試験問題（後期日程）

小論文

法文学部 総合社会システム学科（昼間主コース・夜間主コース）

出題の意図

この小論文の出題の意図は、受験生が社会科学系の学問を専攻する上で必要な能力をどの程度持っているかを見ることにある。

まず、内容に則した質問をすることによって、提示された文章を正しく読解できるかどうかをみる。次に、具体的な社会現象に言及させることによつて、人間社会への関心の深さを問い、提示された文章と社会現象を結びつけて論じさせることにより、社会現象について柔軟かつ総合的に考察する能力を測る。

また、解答された文章全体から、自分の考えを論理的に展開する能力を判断する。